

- 問1 平安時代後期に藤原氏の栄華の象徴として平等院鳳凰堂を建立した、当時の政治の実権を握っていた人物は誰？
- 問2 空海が唐で学んだ密教を日本に広めるために金剛峯寺を建立した際、唐へ渡った制度を何という？
- 問3 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？
- 問4 平安時代初期に、唐から真言宗を持ち帰り、金剛峯寺を建立した僧は誰？
- 問5 平安時代末期に厳島神社の社殿を整備した武士は誰？
- 問6 遣唐使の停止を建議した後、政争に巻き込まれて左遷された先はどこ？
- 問7 平安時代の貴族文化において、仏教の教えを絵画や工芸品などを用いて表現したものを何という？
- 問8 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問9 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？
- 問10 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問11 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？
- 問12 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？
- 問13 平安時代に日本独自の文化が発展したきっかけとなった、遣唐使が停止された時期はいつ？
- 問14 平安時代に遣唐使の廃止などを背景に栄えた、日本の風土に合わせた独自の文化を何という？
- 問15 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問16 平安時代中期に、貴族社会を題材とした長編物語『源氏物語』を執筆した女性作家は誰？
- 問17 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
- 問18 比叡山で修行を積み、後に鎌倉時代に新しい宗派を広めた指導者たちの総称を何という？
- 問19 国司が中央政府から認められた、現地の税を集める権利を何という？
- 問20 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？
- 問21 平安時代初期に、唐で密教を学んで帰国し、高野山を拠点として真言宗を開いた僧は誰？
- 問22 1086年に天皇の位を譲った後、上皇として御所外から政治の実権を握った人物は誰？

## 答え合わせ・解説

問1	答え 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿彌陀如来像を安置させました。
問2	答え 遣唐使	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問3	答え 法華経	法華経は、天台宗が最も重視する経典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの経典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問4	答え 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問5	答え 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。
問6	答え 大宰府	道真の急激な昇進に嫉妬した藤原氏などの貴族によって、道真は無実の罪を着せられ、九州の大宰府へ左遷されました。道真はそこで失意のうちに亡くなりましたが、その後、都では道真の怨霊の仕業とされる天災や異変が相次ぎました。
問7	答え 浄土教美術	浄土教美術は、阿彌陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿彌陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問8	答え 浄土信仰	浄土信仰は、阿彌陀仏を信じ、その名（南無阿彌陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿彌陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしていました。平等院鳳凰堂はその代表例です。
問9	答え 遣唐使廃止	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地へ赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。
問10	答え 仮名文字	仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。
問11	答え 藤原道長	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中枢に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問12	答え 中尊寺金色堂	中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。
問13	答え 9世紀末	894年、菅原道長の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問14	答え 国風文化	国風文化は、平安時代の中頃から後半にかけて貴族を中心に発達した文化です。それまでの唐風の文化から脱却し、日本の自然や風土、日本人の心情に適した形へと発展しました。仮名文字の発明により、文学や芸術が非常に豊かになったのが特徴です。
問15	答え かな文字	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問16	答え 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問17	答え 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みました。
問18	答え 鎌倉新仏教	比叡山延暦寺は、当時最高の仏教教育機関でした。そこで学んだ法然、親鸞、道元、日蓮、栄西などは、厳しい修行や学問が困難な民衆や武士のために、より平易な教えを創設しました。これが鎌倉新仏教と呼ばれる一連の宗派です。「専修念仏」や「坐禅」など、個人の信仰のあり方を重視したのが特徴です。
問19	答え 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の徴収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問20	答え 桓武天皇	桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。
問21	答え 空海	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授けられました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、経典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問22	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。